

1. 全体概況

2019年度（夏・冬スケジュール）における国際線提供座席数は、計約6,419万席と昨年より約393万席増加した（昨年比：106.5%）。航空会社別では、上位から全日本空輸 約717万席（構成比：11.1%）、日本航空 約543万席（構成比：8.5%）、中国東方航空 約262万席（構成比：4.1%）の順となった。

●海外就航地別では、TC1が約683万席（昨年比：約99.4%）、TC2は約470万席（昨年比：約108.9%）、TC3は約5,265万席（昨年比：約107.3%）とそれぞれ増加した。構成比ではTC1は約10.6%、TC2は約7.3%、TC3は約82.0%となった。

●日本国内就航地別では、成田、羽田、関西の国際線主要3空港では約240万席（昨年比：約105.2%）の増加に加え、上記3空港を除いた日本国内29空港総計で約153万席（昨年比：約110.6%）増加した。

●FSC（フルサービスキャリア）／LCC（ローコストキャリア）別では、FSC計約206万席増（昨年比：約104.6）に対し、LCC計は約187万席増（昨年比：約112.3%）となり、LCCの構成比は昨年より1.4ポイントアップした。

備考：本レポートは、訪日旅客数の増加に伴う輸送力分析の基礎データとして活用することを意図して「座席数」を単位としている。尚、提供座席数は公表された時刻表を主な情報源として算出した計画値のため、実際の座席数と異なる場合がある。また、チャーター便は含めていない。

2. 各項目詳細

(1) 海外就航地別

TC1： 683.3万席 / 対前年比 99.4% / 構成比率 10.6%
 TC2： 470.5万席 / 対前年比 108.9% / 構成比率 7.3%
 TC3： 5,265.3万席 / 対前年比 107.3% / 構成比率 82.0%

TC1 詳細

- ・増加（6空港）：+11.1万席
 - ◆増加数上位3空港
 - 1.シアトル（+8.6万席）
 - 2.ロサンゼルス（+0.9万席）
 - 3.ホノルル（+0.7万席）
- ・減少（17空港）：▲15.4万席
 - ◆減少数上位3空港
 - 1.シカゴ（▲4.8万席）
 - 2.バンクーバー（▲3.5万席）
 - 3.サンフランシスコ（▲1.8万席）

TC2 詳細

- ・増加（11空港）：+55.0万席
 - ◆増加数上位3空港
 - 1.ウィーン（+14.1万席）
 - 2.ミュンヘン（+10.3万席）
 - 3.ヘルシンキ（+8.0万席）
- ・減少（12空港）：▲16.5万席
 - ◆減少数上位3空港
 - 1.フランクフルト（▲14.7万席）
 - 2.ドーハ（▲0.4万席）
 - 3.ミラノ（▲0.3万席）

TC3 詳細

- ・増加（64空港）：+464.3万席
 - ◆増加数上位3空港
 - 1.バンコク（+82.4万席）
 - 2.台北（+45.9万席）
 - 3.上海（+25.8万席）
- ・減少（28空港）：▲105.0万席
 - ◆減少数上位3空港
 - 1.ソウル（▲46.1万席）
 - 2.デンパサール（▲14.9万席）
 - 3.釜山（▲12.0万席）

(2) 日本国内空港別

主要3空港（成田・羽田・関西空港）：4,819.1万席 / 対前年比105.2%
国内29空港（上記3空港除く）：1,599.9万席 / 対前年比110.6%

主要3空港

- ・**成田空港：2,205.1万席／対前年比104.4%（+92.2万席）**
 - ◆増加した就航先
1. バンコク（+19.4万席）2. ソウル（+16.2万席）3. ハノイ（+8.6万席）ほか
 - ◆減少した就航先
1. デンパサル（▲14.2万席）2. シンガポール（▲9.5万席）3. ジャカルタ（▲7.3万席）ほか
- ・**羽田空港：1,085.7万席／対前年比101.7%（+17.9万席）**
 - ◆増加した就航先
1. 北京（+9.1万席）2. シンガポール（+8.9万席）3. ウィーン（+7.8万席）ほか
 - ◆減少した就航先
1. 広州（▲6.8万席）2. 香港（▲4.1万席）3. サンフランシスコ（▲2.4万席）ほか
- ・**関西空港：1,528.4万席／対前年比109.3%（+130.3万席）**
 - ◆増加した就航先
1. バンコク（+23.3万席）2. 天津（+16.3万席）3. 杭州（+11.4万席）ほか
 - ◆減少した就航先
1. ソウル（▲22.1万席）2. フランクフルト（▲13.8万席）3. 釜山（▲10.0万席）ほか

増加（5地方）

- ・**中部地方（国際線就航5空港）**
：504.4万席／対前年比126.3%（+105.0万席）
 - ◆増加（4空港）
1. 中部（+98.6万席）2. 静岡（+5.5万席）3. 小松（0.8+万席）ほか
 - ◆減少（1空港）
1. 新潟（▲0.3万席）
- ・**北海道地方（国際線就航3空港）**
：265.9万席／対前年比108.6%（+21.1万席）
 - ◆増加（2空港）
1. 千歳（+19.8万席）2. 旭川（+1.5万席）
 - ◆減少（1空港）
1. 函館（▲0.2万席）
- ・**九州・沖縄地方（国際線就航11空港）**
：713.1万席／対前年比102.2%（+15.6万席）
 - ◆増加（4空港）
1. 福岡（+32.0万席）2. 北九州（+5.7万席）3. 下地島（+1.2万席）ほか
 - ◆減少（7空港）
1. 那覇（▲11.9万席）2. 大分（▲3.6万席）3. 熊本（▲3.5万席）ほか
- ・**東北地方（国際線就航3空港）**
：34.6万席／対前年比150.4%（+11.6万席）
 - ◆増加（3空港）
1. 仙台（+8.4万席）2. 花巻（+1.6万席）3. 青森（+1.6万席）
 - ◆減少 なし
- ・**関東地方（国際線就航1空港＝茨城）**
：8.9万席／対前年比154.7%（+3.1万席）

減少（1地方）

- ・**中国・四国地方（国際線就航6空港）**
：73.0万席／対前年比95.5%（▲3.4万席）
 - ◆増加（1空港）
1. 松山（+1.2万席）
 - ◆減少（4空港）
1. 広島（▲2.5万席）2. 米子（▲1.7万席）3. 岡山（▲0.3万席）ほか

国内29空港 （上記3空港除く）

(3) フルサービスキャリア (FSC) / ローコストキャリア (LCC) 別

FSC座席数 (77社) : 4,712.1万席 / 対前年比104.6%

LCC座席数 (30社) : 1,706.9万席 / 対前年比112.3%

2019年構成比率 : FSC : LCC = 73.4% : 26.6% (対前年+1.4ポイント)

2018年構成比率 : FSC : LCC = 74.8% : 25.2%

LCC座席数上位4路線の詳細は以下の通り。

・ソウル線LCC(就航20空港・6社) : 435.0万席 / 前年比95.5% (▲20.4万席)

◆増加空港

1.成田 (+17.0万席) 2.名古屋 (+5.9万席) 3.福岡 (+2.2万席)

◆増加航空会社

1.チエジロ航空 (+5.6万席) 2.ピーチ (+1.6万席) ほか

・台北線LCC(就航15空港・8社) : 227.7万席 / 前年比113.7% (+27.5万席)

◆増加空港

1.関西 (+13.6万席) 2.仙台 (+4.1万席) 3.名古屋 (+3.7万席) ほか

◆増加航空会社

1.ピーチ (+29.8万席) 2.スクート (+9.4万席) 3.エアアジアX (+7.8万席) ほか

・バンコク線LCC(就航7空港・6社) : 195.7万席 / 前年比186.7% (+90.9万席)

◆増加空港

1.成田 (+31.4万席) 2.名古屋 (+21.0万席) 3.名古屋 (+19.3万席) ほか

◆増加航空会社

1.タイエアアジアX (+33.4万席) 2.タイライオンエア (+33.3万席) 3.ノックスクート (+26.2万席) ほか

・香港線LCC(就航13空港・4社) : 175.1万席 / 前年比108.8% (+14.2万席)

◆増加空港

1.沖縄 (+10.1万席) 2.福岡 (+2.5万席) 3.長崎 (+1.2万席) 4.下地島 (+1.2万席) ほか

◆増加航空会社

1.香港エクスプレス (+14.7万席) 2.ピーチ (+7.7万席)

LCC
詳細